

【資料2】 中間層を実践へと導くための手法（案）

委員名	段階			対象	内容	誰が？どうやって？予算は？
	意識してもらう	理解してもらう	実践してもらう			
青木（善）委員			○	ビジネス宿泊客	・節電、節水などの取り組みが見える化される宿泊部屋を用意して、ポイント交換出来る特典を付ける。	
	○			ひとり暮らしの市民	・環境を話題とした催しを行って節電、節水、CO2削減などにつながる交流会などを行う。	
			○	家族・親子	・公共交通機関を利用した「家族割引」。	
			○	自動車通勤者	・週に1度程度、自動車を使わずに通勤すると得られる「特典」を作って補助する。	
			○	10年以上前の冷蔵庫保有者	・冷蔵庫購入を促進するキャンペーン	・誰が：家電量販店、地域の電気屋さんに協力もらう。 ・どうやって：電力会社、家電メーカーに協賛してもらい、節電になった金額相当を割引補助もらう。
大野委員			○	親子	・地産地消でエネルギーの削減。 ・職の王国北海道の再発見するため、バスで減農薬農家を訪問。収穫祭と畑で簡単料理教室開催。	
		○		30代ファミリー	・SCのイベントコートで「環境教室」（教材は市作成のもの）開催。 ・関心の薄いお買いもの客が参加し、お菓子を食べながら、気楽に、楽しく学べる。	
小田委員			○	町内会	・昨年度藤野地区における町内会役員を対象とした消費電力量の見える化機器を活用した取組を発展させ、役員以外の人にも取組の輪を広げるとともに、省エネ診断や節電キャンペーンも組み合わせた取組を展開する。	
武田委員		○		情報・知識不足者	・何をすると環境配慮なのか理解していない人に対し、具体例を挙げることで知ってもらう。何気ない日頃の行動の一つが環境配慮だったかもしれない。	
			○	安易にマイカーを利用する人たち	・札幌市の公共交通機関を利用すると何らかの付加サービスが与えられる制度を導入してマイカー利用を減らす。	
宮森委員		○	○	細かく気にするのは面倒と感じている18～39歳の世代	・今までの「こまめに取組む」という面倒なイメージからの脱却。 ・キーワードを「楽エコ」とし、楽に取組めて楽しく続けられる環境配慮型行動を促す。 ・若い世代で構成するワーキンググループやアンケートからアイデアを収集。 ・スマートフォンならではの機能を活用した「楽エコ」アプリを制作し、無理なく継続できる省エネのノウハウを配信。 ・消費電力など、エネルギーのデータが入力可能で、実践しながら自身の立ち位置を確認できる機能を持たせる。 ・省エネを実践する毎にキャラクターがバージョンアップするようなゲーム感覚も取り入れ、楽しく継続できる。	・誰が：札幌市環境保全協議会、さっぽろ地球温暖化対策地域協議会、協力企業 ・どうやってやる：協議会が主導で「楽エコ」プロジェクトを立ち上げる ・予算はどうする：さっぽろエコメンバー登録企業参加のクリック募金